

## グローバリゼーションとホームレスの国際比較研究

### — (1) 全体の枠組みと東京の事例 —

○東京学芸大学 山口恵子

○放送大学 北川由紀彦

#### 1. 研究全体の目的／対象／方法

グローバリゼーションが進行する中、世界の各都市において〈ホームレス〉の増大という現象が報告されてきた——例えば、アメリカ合衆国の諸都市では1980年代初頭から、日本の東京や大阪においては1990年代中頃から——。いわゆる「開発途上国」も例外ではなく、フィリピンのマニラにおいても、2000年代以降、新しい〈ホームレス〉の増大が指摘されている。

ただし、グローバリゼーションが各都市の〈ホームレス〉の動態に与える影響は一様ではない。本研究は、東京、大阪、マイアミ、マニラの4都市の国際比較を通じて、大都市における〈ホームレス〉の動態（どのような階層がどのようなプロセスを経て、ホームレス状態に至り、ホームレス状態に滞留し、あるいはそこから離脱しているのか）の分析を行う。それを通して、グローバリゼーションが〈ホームレス〉を中心とした都市下層に与える影響のヴァリエーションと、その差異をもたらす構造的要因を明らかにすることが本研究の目的である。

具体的には、2013年に東京、大阪、マイアミ、マニラのそれぞれの都市において、ホームレス状態経験者（ストリート・ホームレス、シェルター・ホームレス、元ホームレス）に対して、統一的な調査項目を用いて、インテンシブな聞き取り調査を行った（各都市25人程度、主な調査項目は、基本属性、家族・成育歴、職業・居住歴、初めてホームレス状態に至った経緯、現在の生活状況などであり、1人あたり1～3時間程度）。聞き取り調査によって得られたこれらのデータの分析を中心に据えつつ、各都市に関する既存のデータなども用いて、各都市の〈ホームレス〉の動態とその背後にある構造的要因に迫る。

#### 2. 本報告の概要

今学会では研究チームとしては3つの報告を行う。本報告はその第一報告にあたる。本報告では、まず、研究全体の目的や対象、研究の意義を示す。次に、マイアミなど他都市との比較も念頭に置きつつ、東京の分析結果（聞き取り調査データの分析に基づく、ホームレス状態への析出過程とホームレス状態からの退出過程の類型化等）を示す。

東京の分析結果からは、以下の諸点が指摘できる。（1）ホームレス状態に至るまでの職業履歴に注目した場合、〔建設業で一貫〕のほか、〔製造業で長期・ほぼ正規雇用〕、〔製造業・運輸業でほぼ非正規〕、〔主に飲食・サービス業などのグレーカラー職〕などの類型が見出された。（2）制度利用によるホームレス状態からの退出過程に注目した場合、〔自立支援センター等の「ホームレス対策」を経由してのアパート入居〕のほか、〔生活保護適用によるアパート入居〕、〔第二種宿泊所を経由してのアパート入居〕、などの類型が見出され、また、2000年代以降、退出経路が多様化しつつあることが見出された。

グローバリゼーションの進行は、資本の競争の加速と経済のサービス化、非正規化等をもたらし、また、土地投機等によるジェントリフィケーションを促す一方で、ネオリベリズムの浸透による社会政策の再編を促す。東京の〈ホームレス〉の動態とその背後の構造を理解するためには、労働市場の変容に加え、「ホームレス対策」や生活保護といった社会政策の再編の動向（都市レベルでの制度運用の実態・変化を含む）にも注目することが重要であることを、今回の分析結果は示している。当日の報告では、4都市の比較・検討結果についても触れる予定である。

なお、本報告はJSPS科研費(24330145)の研究成果の一部である。